

2026年度連盟ビジョンへの アクションプラン



2024年3月
大阪府ソフトバレーボール連盟

1. アクションプラン策定の背景

- ここ数年連盟運営に係る経費について基金勘定からの繰り入れをしているのが続いている。連盟発足後は加盟チームも多く収支も安定した連盟運営ができていた。しかし、JVAMRS の導入、連盟加入の煩雑さや束縛されずにソフトバレーボールを楽しむといった風潮もあり加盟チーム数が大きく減少した。現在、13 チームが加盟するに留まっており連盟事務局費用も賄えない状況である。
- 2023 年度会計収支では、一般会計へ 210,536 円の繰出しを行うこととなっている。ここ数年この状況が続いており、基金も908,372 円となり、このままの状況が改善されなければ 4年で基金は底をつき連盟運営に大きな支障が出てくる。また、連盟組織について、連盟発足当時から永年貢献されてきたメンバーも高齢化を迎えている。
- 今後、世代交代をせざるを得ない状況がいずれ出てくることが予想される。そのために連盟財政、組織の在り方やそれに伴う規約・規定の見直しも含めて、2026年度までのあらたな連盟ビジョン構築へのアクションプラン(3か年計画)を策定した。

参考

年度	基金	総入金	繰出金	次年度繰越金
2019	1,821,772	0	149,590	1,672,182
2020	1,672,182	0	137,890	1,534,292
2021	1,534,292	0	72,521	1,461,771
2022	1,461,771	0	342,863	1,118,908
2023	1,118,908	0	210,536	908,372
2024	908,372			

資料1 基金勘定年次推移

年度		加盟チーム数	備考	年度		加盟チーム数	備考
2001	平成13年			2013	平成25年	44	
2002	平成14年	113		2014	平成26年	35	
2003	平成15年	135		2015	平成27年	33	
2004	平成16年	135		2016	平成28年	26	
2005	平成17年	128		2017	平成29年	26	
2006	平成18年	112		2018	平成30年	22	
2007	平成19年	114		2019	令和元年	18	
2008	平成20年	41(104)	MRS登録開始	2020	令和2年	0	新型コロナウイルスため活動停止
2009	平成21年	80		2021	令和3年	0	新型コロナウイルスため活動停止
2010	平成22年	71		2022	平成4年	14	
2011	平成23年	61		2023	令和5年	13	
2012	平成24年	50		2024	令和6年		

資料2 加盟チーム年次推移

2. 2つの取組

- アクション1: 財政再建計画
- アクション2: 運営組織再編計画

3. スケジュール

- 2024年からの2026年までの3年間とする。
- 3年経過後にプランの取組について評価検証を行い、以後の実施について検討する。

4. 達成すべき項目

- 連盟運営の黒字化を図り、基金に一定額の繰入ができるようにすること。
- 加盟チーム数の増加を図ること。
- 世代交代を見据えた運営組織の構築

5. 具体的取組

アクション1: 財政再建計画

基金から一般会計への繰出しを行わない運営を行い、基金を増やしていく。基金は、周年記念行事や高額な備品購入、非常変災時における対応等を賄う趣旨としての位置づけである。このことから一般会計の赤字補填という負のサイクルからの脱却をめざす。

支出を減らす

1. 2026年度までの緊急対策として、年間の大会等における執行役員の日当の支払い停止、大会や会議等における役員旅費を見直し支出削減を図る。
 - 決算報告をみると、年間5回の大会に係る旅費・日当を合計すると基金からの繰出し金額とほぼ同額になっている。
2. 大会の実施に伴う会場選定の見直し
 - 基本的に全国F予選会及びアクティブリーダー研修会は公営有料施設では行わず企業体育館、学校施設の活用を促進する。
3. 連盟が行う会議(運営委員会・企画委員会・専門部会議等)は対面で行わずオンラインが基本。
 - チーム代表者委員会(兼伝達講習会)は、連盟の最重要事項を審議する会議のため対面を基本とする。

収入を増やす

1. 連盟加盟金の増額の検討

- 現行 5,000 円であるが連盟設立(2001年)から改定していない。加盟金改定には加盟チームへの理解がもとめられるため、各都道府県連盟へのアンケート調査を実態把握する。

2. 加盟チーム数を増やす

- 加盟チームからの加盟金(現行 5,000 円)をもって事務局費を賄うことが基本であるが、現状では 13チーム 65,000 円の収入に対して支出は OVA や近畿連盟等の加盟金 70,000円その他の事務局費も加えると 2023 年度 185,533 円もかかっている。加盟金以外の事務局費の縮減をしたとしても 12 万円から 13 万円は必要となる。そうすると、加盟金を現行据え置きとするならばチーム数を 24~26 チーム程度が必要で25チームを目指す

3. 大会収益を増やす

- 全国 F 予選会は基本公営体育館での実施は考えていないが、コートが余る場合はオープン大会を実施し収益を増やす。
- 実業団大会 モッピー交流会長杯 ソ・コロボ大会での参加チーム数を増やす。借用する公営体育館のコート数、可能試合数などを考慮して 当該体育館の借用料金・運営費用の収支が黒字運営になるように考える。

4. スポンサー等の開拓

- 生涯スポーツの観点から趣旨に賛同いただける企業団体を見つける。スポンサー料の見返りとして大会等の開催時のブースや宣伝、連盟が出す広報ビラや HP への企業名の掲載など行う。
- 企業や団体等の福利厚生事業でのソフトバレーボールイベントのプロデュース

4. 具体的取組

アクション2: 運営組織計画

- 連盟役員及び委員については、現行規約上、第 5 章第 9 条(役員の種類)、第 10 条(選出)、第 11 条(役員任務)、第 14 条(委員の選出等)が記載されている。また、第 6 章第 15 条にてチーム代表委員について規定されている。チーム代表委員は、加盟チームから指名されたメンバーにてチーム代表委員会を構成、チーム代表委員は第 9 条の役員、第 14 条の委員にはなれないと規定されている。
- 役員の選出については、誰かが「この人は適任だ」という理事推薦により個別に折衝し役員就任依頼をしている。いわゆる『一本釣り』といわれている方法により理事として理事会、チーム代表委員会にて承認及び委嘱しているが、今後どこかの段階で役員が高齢等の理由で辞退する時期が来て、役員の人選に困難が生ずることも予想されることも踏まえ、プラン実施期間内にて検討していく。

取組

1. 理事推薦方法の検討
2. 広く加盟チームからの意見が連盟運営に反映される方策の検討

5. 数値目標

アクション1: 財政再建計画

支出を減らす

項目	2024年度	2025年度	2026年度
1. 年間の大会等における 執行役員の日当の支払い停止 〈会長以下副理事長までの日当〉	年間5回＋研修会2回として 1人7,000円×8人 〈顧問・参与除く〉 56,000円削減	年間5回＋研修会2回として 1人7,000円×8人 〈顧問・参与除く〉 56,000円削減	年間5回＋研修会2回として 1人7,000円×8人 〈顧問・参与除く〉 56,000円削減
2. 大会や会議等における役員旅費 を見直し	車利用による支給削減 〈鉄道換算の50%減額〉	車利用による支給削減 〈鉄道換算の50%減額〉	車利用による支給削減 〈鉄道換算の50%減額〉
3. 大会の実施に伴う会場選定の見 直し	・全国F予選会1 公営GYM⇒企業GYM ・アクティブ研修会 学校GYM使用	・全国予選会1・2 ・アクティブ研修会 ⇒企業GYM ・大会の学校GYM模索	・全国予選会1・2 ・アクティブ研修会 ⇒企業GYM ・大会の学校GYM模索
4. 会議(運営委員会/企画委員会/ 専門部会議等)	・オンライン 旅費支給0	・オンライン 旅費支給0	・オンライン 旅費支給0

5. 数値目標

アクション1: 財政再建計画

収入を増やす

項目	2024年度	2025年度	2026年度
1. 連盟加盟金の増額の検討	・都道府県連盟アンケート実施 ・多様な加盟金額の設定の検討 ＜一律ではないチームの状況に応じた金額設定等＞		
2. 加盟チーム数を増やす	・16チーム ＜現状から+3＞ ＜現状から+15,000円＞	20チーム ＜現状から+7＞ ＜現状から+35,000円＞	25チーム ＜現状から+12＞ ＜現状から+60,000円＞
3. 大会収益を増やす	・予選会時のオープン大会: 30チーム ・実業団: 40チーム ・モッピー: 60チーム ・ソコラボ: 140名 ・会長杯: 50チーム	・大会会場にキャパに応じたチーム数の設定	・大会会場にキャパに応じたチーム数の設定
4. スポンサー等の開拓	・生涯スポーツの観点から、企業イメージ合致する企業等の発掘 ・企業や団体の福利厚生事業のプロデュース		